2020年7月発行

intertek news

Vol.69

ISO関連季刊情報誌（年4回発行）

CONTENTS

01 コロナ禍の認証活動

02 03 特集
SDGs経営に役立つISO14001（2）

04 News&Topics
- 2020年世界認定推進の日
- オンラインセミナー開催
- UKAS監査（リモート）
- Q&A

05 審査の現場から
- お客様紹介
（株式会社ハースト婦人画報社／株式会社ハースト・デジタル・ジャパン）

06 連載よみもの
- 審査員リレーエッセイ
「映画を見ながら思うこと」
（審査員　山本 正明）
- 環境とISO14001
「海洋プラスチック汚染」（その2）

07 お客様からのお便り
- 「世界初から世界のTakeuchiへ」
（株式会社竹内製作所）
- 「人が輝くISO活動を目指して」
（株式会社茨城製砥）

08 研修コースのご案内
- ちょっといっぷく
- 研修コース案内
- 受講生からのお便り
（審査員　玉城 武則）

インターテック・サーティフィケーション株式会社

発行 大阪事務所 ◇本誌に関するお問い合わせは大阪事務所まで◇

◆バックナンバーは、弊社ホームページにてご覧いただけます。

https://ba.intertek-jpn.com/

コロナ禍の認証活動

QMS認証部 スキームマネージャー補佐　堤（つつみ） 倫礼（ともので）

今回のコロナ禍において、私どもは、グローバルにて定めました“Contingency Plan COVID-19（新型コロナウイルス感染症への緊急時対応策）”及び皆様の安全を考慮し、また、経済活動の継続と社会的責任の観点から、審査事業を継続いたしました。

政府及び地方自治体より、「人と人との接触機会を極力8割削減する」との目標の設定と要請がなされ、弊社では、審査時における皆様への新型コロナウイルス感染防止のため、マネジメントシステム審査につきましては「リモート審査（遠隔審査）」を導入し、実施してまいりました。私自身も審査活動を実施しておりますが、1月以降、訪問審査を行う場合は、常に窓をあけて換気を行い、対面ではなく対角線上や互い違いに着席し、お客様とのコミュニケーションを最小限に抑えてインタビューを実施し、また、万が一に備えて自分の動線の明確化など様々なリスク低減対策に努めてまいりました。

リモート審査に関しましては、インターテック・サーティフィケーションでは以前から、他の事業部門においてリモート審査の準備を行っていたこともあり、日本の審査機関の中では、早い段階で導入することが出来ました。私も数件のリモート審査を様々なコミュニケーションツールを使用して実施いたしました。お客様側でスマートフォンを現場に持ち込んでくださり、現場での審査も実施出来た事例もあります。反面、訪問審査を行うときに比べれば、現場を歩いたときの靴の滑り具合、匂い、ダストの量などから、その原因を追求し、改善のご提案を行うというレベルまでには、リモート審査では行きつけなかったのも事実です。今日のICT（情報通信技術）の進歩と今回のリモート審査の課題を改善につなげ、より良いリモート審査の実施を検討してまいります。

最後に、この状況下にておいて審査にご協力いただいたお客様、リモート審査など新しい手法に取り組んでくれた審査員、日々移り変わる状況にてお客様との日程の再調整、臨時の認証登録証明書の発行等の対応にあたってくれた事務所スタッフ、すべての関係者の皆様に感謝を申し上げます。

まだ、先の見えない、この難局を関係するすべての人々と共に連携をし、乗り越えていければと存じます。

Be Safety ご安全に

SDGs経営に役立つISO14001(2)

角子 裕司

特集

前号に続き、SDGsへの取組みにISO14001を活用する方法について取り上げます。前回は、ISO14001をSDGs経営に繋げるツールとしての活用方法、取組みへのヒントをご紹介しましたが、今号では、さらに取組段階と取組み事例について、ご紹介いたします。導入検討・活性化のご参考にしていただければ幸いです。　（編集部）

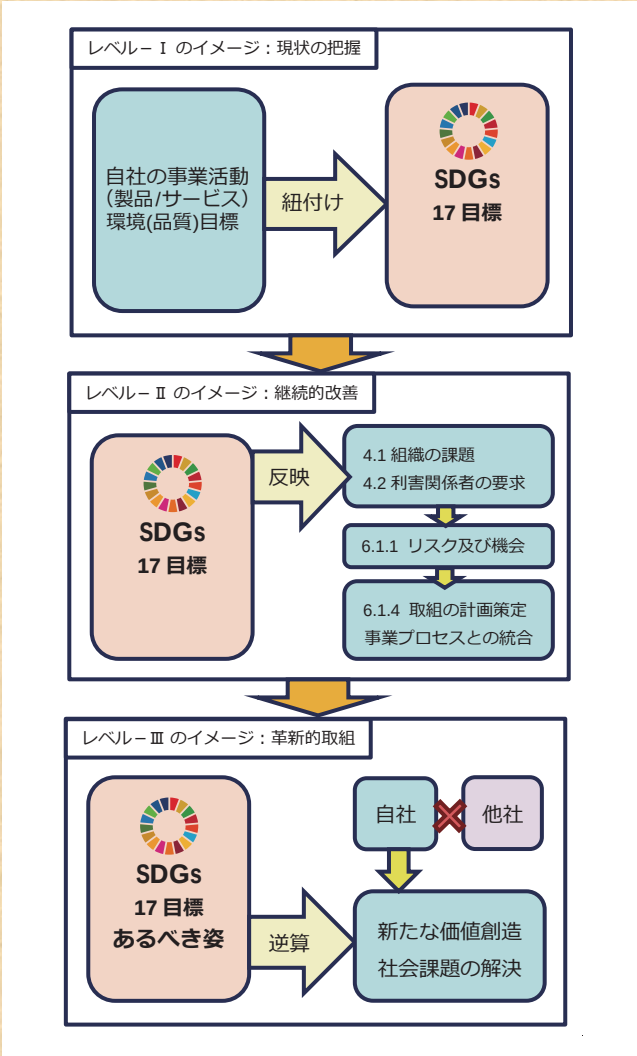
1 SDGsの取組段階

SDGsに取り組む際、取組の達成段階は、概ね3段階で評価できます。これからSDGsに取組む中小企業においては、レベルーⅠから始めて、Ⅱ⇒Ⅲへとレベルアップすることを推奨します。

【レベルーⅠ：マッピング】
自社の事業活動（製品/サービス）や環境（品質）目標について、SDGsの課題（17の目標や169のターゲット）に当てはまるものを紐付け（マッピング）することで、SDGsへの理解を深める。
※このレベル止まりの場合、SDGsウォッシュ（うわべだけ）になる危険性もある。

【レベルーⅡ：SDGs経営】
組織の課題（4.1）や利害関係者の要求事項（4.2）に、SDGsの課題を反映してEMSの活動内容（取り組む必要のあるリスク及び機会）を決定する（6.1.1）。
この取組みの計画を策定（6.1.4）し、自社の事業計画に組み込むことで、SDGsの取組みを事業プロセスに統合させられる。

【レベルーⅢ：イノベーション】
SDGsの課題（あるべき姿）から逆算し、自社の事業活動を根本から見直すことで、新たな共通価値を創造する。（他社との連携も）
新たな共通価値として、製品/サービスレベル、バリューチェーンレベル、地域エコシステムレベルの3つがある。



取組事例－1（製造業）

《従来の取組》
製造過程で発生する材料シートの端材は産業廃棄物になるので、削減活動に取り組む。

《SDGs 経営の取組》

これまで全て廃棄していた材料シートの端材を、デザイン会社と提携し（⇒目標17）、機能的で安価なエコバッグとして再生し（⇒目標12）、市場で販売する新たな事業を立ち上げた。
この事業の製造現場では、障害者雇用を積極的に推進した。（⇒目標8）

※17の目標は相互関係が強い為、1つの取組で複数の目標に貢献できる場合が多い。

取組事例－2（建設業）

《従来の取組》
設備補修事業の非破壊検査前処理（錆落とし）工程をハンドグラインダーで実施。

《SDGs 経営の取組》

レーザークリーナーを導入し、作業方法を変更することで、作業時の騒音・振動や発塵がなくなり、作業者への負担が軽減された。（⇒目標3）
大量に発生していた削りクズも殆ど出なくなった。（⇒目標11、12）
作業性も大幅に向上し、設備補修事業の工期短縮が実現された。（⇒目標9）

※中小企業は、ものづくり補助金等を活用することで、設備投資の負担も下げられる。

2 SDGs経営の取組事例

中小企業におけるSDGs経営の取組事例を上図にて紹介いたしました。外務省のHP「JAPAN SDGs Action Platform」でも多くの事例が紹介されていますので、自社取組の参考にしてください。

3 2030年に向けて企業の課題

近年、様々な自然災害や感染症等の発生により、中小企業を取り巻く経営環境は激変し、企業のあり方を根本から見つめ直す機運が高まってきています。この課題解決に有効なツールとして「**SDGs経営**」があり、SDGsの17ゴールを自社のISO活動に反映させて取り組むことで、社会課題の解決と企業存続の両立が期待できます。

但し、この両立の実現には、経営者の「**自社の強みを活かし、環境・経済・社会の統合的な視点で課題解決に挑戦する**」という意識変革と強いリーダーシップが求められます。

2030年のグローバルゴールに向け、SDGs経営の実践を通じて「**本業で社会課題への貢献**」を実現する、サステナブル（持続可能）なISO企業を目指していきましょう。

筆者紹介

角子 裕司（かくし ゆうじ）

鉄鋼関連機関にて環境分野に関する調査・分析・品質管理業務等に従事。独立後、各種マネジメントシステムの構築および運用支援サービスを提供、実績多数。現在、中小規模製造業の経営体質強化支援を中心に活動。兵庫県在住。

2020年世界認定推進の日

6月9日は「世界認定推進の日(World Accreditation Day)」です。認定活動の理解と国際相互承認の普及・活用を高める目的で、ILAC(国際試験所認定協力機構)とIAF(国際認定フォーラム)によって定められたものです。今年のテーマは『Accreditation: Improving food safety(認定:食品の安全性を高める)』。食品の安全性の強化における認定の役割に焦点をあてています。

2019年4月発表の国連食糧農業機関(FAO)、世界保健機構(WHO)、世界貿易機関(WTO)による共同声明では、「食品媒介疾患のために毎年約6億人が病気になり、42万人が早期に死亡し、食品媒介疾患による死亡の30%は5歳未満の子供たちである」として、食中毒被害が強調されています。認定は食品サプライチェーンの能力を強化させ食中毒の発生低減を支援することを目的とするものです。認定機関、認証機関、検査機関、試験所を通じ、適合性評価コミュニティは、安全な食品の提供を支援するために継続的に努力しています。詳細はIAFのホームページをご参照ください。(https://www.iaf.nu/articles/World_Accreditation_Day_2020/374)

オンラインセミナー開催

弊社では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、お客様および講師・従業員の健康と安全を考慮し、通常の集合型セミナーからオンラインでのセミナーの提供を開始いたしました。オンラインセミナーでは、Web会議システムを通してご参加いただく形で、OS(Windows、Mac等)や端末(パソコン、タブレット、スマートフォン)の種類に関係なく、インターネット環境があればご参加いただけます。

初の開催となりました6月のISO9001、ISO14001内部監査員養成1日コースには、多くのご参加をいただきました。通常コースと同様、グループワーク演習も実施し、チャット機能により気軽に自由に発言できてよかったなどオンラインならではの機能も好評で、また、会場場所の制約もないことから全国から広くご参加いただきました。

通常コースもエリアを限定し、感染予防対策を行った上で徐々に開催を再開しておりますが、オンラインセミナーも並行して継続する方向です。講師派遣型セミナーもオンラインで対応出来ますので、ご興味のある方がございましたら、弊社ホームページをご覧いただくか、東京事務所研修部までお気軽にお問い合わせください。

UKAS監査(リモート)

ISO認証機関が審査・認証業務を行うには、認定機関の監査を受け、認定されることが求められます。インターテック・サーティフィケーションは、UKAS(英国認証機関認定審議会)の認定を受け、審査・認証業務を行っています。イギリス本社他、日本を含む重要管理拠点では、定期的に監査を受けていますが、日本では、通常は海外の監査員が来日するところ、コロナの影響で、今年はリモート監査が6月に行われました。

ISOの認証制度において、UKASなどの認定機関による審査基準は、各認定機関の要求事項とISO17021(適合性評価ーマネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項)及び、各審査機関のシステム文書類などが監査対象となります。これらに基づき、審査、認証活動、審査員の力量を含む、認証機関としての適切な業務を行っているか等について、詳細な監査を受けました。

弊社が、審査業務を継続するためには、UKAS監査の結果に対応し、継続的改善を進めていくことが重要です。今後とも、お客様へのサービス向上を目指し、初心を忘れず、付加価値のある審査活動を行ってまいります。

Q&A

お客様からいただきましたご質問についてご紹介いたします。

Question

コロナの影響で、今年の夏は、いろいろな行事が中止(延期)になっています。ISOの審査も、今年は、感染のリスクが残るため、1回飛ばしたいと思っていますが、可能でしょうか?

Answer

弊社では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言後も、経済活動の継続と社会的責任の観点から、審査事業を継続し、解除後も引き続き、皆様の安全への配慮に努めながら、業務を推進しております。そのため、お客様におかれましても、経済活動再開に合わせ、審査日の延期は避けていただきますようお願いしております。また、今年度の審査を飛ばすことは、認証の維持に影響が出るため、従来通り、定期審査を受審いただく必要がございます。

新型コロナウイルス感染拡大以降、お客様側でも感染防止措置を講じられてきたと思いますが、弊社審査員がお伺いする際にも、皆様の安全確保と感染拡大防止のため、三密(密閉・密集・密接)の回避、換気、咳エチケット、マスクの着用等の対応策を引き続き実施しておりますので、お客様におかれましても同様にご対応をお願いしております。

また、弊社審査員が訪問する前、もしくは訪問中、万が一、貴組織にてウイルス感染を疑う症状が現れた場合は、お手数ですが、事務所の担当者までご連絡いただけますようお願いいたします。

弊社では、感染拡大防止のため、マネジメントシステム審査につきましては、リモート(遠隔)審査を導入、推奨しておりますが、引き続き、実施しております。都道府県など各行政による予防策、貴組織の社内外対応ルールの継続により、訪問での審査が難しい場合は弊社までご相談賜りますようお願いいたします。その他定期審査の継続実施に関し、ご不明な点やご質問等ございましたら、弊社担当営業、または東京事務所各規格認証部まで、お問い合わせください。皆様の健康と安全確保に努めてまいりますので、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お客様紹介

株式会社ハースト婦人画報社/株式会社ハースト・デジタル・ジャパン 様

（ISO14001：2015認証登録）

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

株式会社ハースト婦人画報社様は、日・米・仏のメディアが融合したような出版社です。2011年に世界最大級のメディアグループ、アメリカのハーストの一員となられ、1905年に創刊した『婦人画報』をはじめ、1867年にアメリカで創刊した『ハーパーズ　バザー』、1945年にフランスで創刊の『エル』の他、『ヴァンサンカン』『メンズクラブ』などを中心に、ファッション、カルチャー、デザイン、フード、ウエディングなどに関する雑誌やデジタルメディアを展開されています。近年はデジタル戦略に注力し、デジタルメディアとして「コスモポリタン」「Women's Health（ウィメンズヘルス）」を公開し、「エル・ショップ」などのEコマースも強化しています。

時計を軸にした新しいデジタルメディア「HODINKEE」のローンチパーティー

2016年に設立された株式会社ハースト・デジタル・ジャパン様（ハースト婦人画報社100％出資）は、デジタル事業をさらに発展させるために立ち上げた会社です。「コスモポリタン」「ウィメンズヘルス」などのデジタルメディアの運営を行い、新規デジタルビジネスの開拓を行っています。ハースト婦人画報社とハースト・デジタル・ジャパンは、従来の出版社から脱皮し、「雑誌も発行するデジタル・パブリッシャー」への転身を加速されています。

この2社にて、2019年にISO14001:2015を認証取得されました。審査では、日本語が堪能なフランス人の代表取締役社長、ニコラ・フロケ氏がインタビュー対応されましたが、環境保護への取り組みに対する方針を明確に示され、EMSを事業発展のためのツールとして導入し、社内教育による周知の重要性も示されていました。事業活動における改善活動を有益な環境側面としてとらえられており、各部門の活動として環境目標に設定し、効果的な活動推進のための基盤を確立されていることが、確認できました。

115年前に発行された婦人画報初号表紙

また、同社の出版物で環境問題がたびたび取り扱われていることも伺いました。2020年3月号の『エル・グルメ』の誌面では、SDGsの記事が掲載されており、「おいしい！から始めるSDGs」と題し、持続可能な世界をつくるために、私たちが達成すべき17の世界共通目標「SDGs」について、“作る、買う、食べに行く。おいしく、そして楽しみながら持続可能な未来をつくる方法を考えてみよう。”との内容になっているそうです。興味深い特集なども多く取り上げられており、新たなファンを獲得されています。

SDGsやチャリティなど、メディアを通した社会貢献活動も積極的にされており、今後のますますの事業展開が期待されます。

ヘルシーなライフスタイルを応援する「Women's Health」のフィットネスイベント

https://www.hearst.co.jp/

審査員リレーエッセイ ⑰

From
長野県長野市
山本 正明
（やまもと まさあき）

Profile
専門分野：ISO9001－農業、品質検査、品質管理
経　　歴：農業経営コンサルタント、食品製造コンサルタント、インターテック審査員（現職）

審査員からのエッセイをお楽しみください。

「映画を見ながら思うこと」

私の趣味の一つに映画鑑賞がある。特に映画館で鑑賞するのは格別なものがある。あのゆったりとしたシート、臨場感のある迫力のサウンド、良くも悪くも閉鎖的な空間で鑑賞に集中できる環境は非日常世界を作り出してくれる。

作品によっては審査活動の中で訪れた土地や風景がロケ地になっていることもあり、親近感が沸いてくるとともに審査先組織の皆さんは恙無く過ごされているのかなと思い起こされる。また、エンドロールで流れる製作に携わったスタッフの方々の名前や協力者の表示を見るたびに、多くの人たちの連携によって紡ぎあげられていることを感じる。

様々な制限のある中で、企画し、映像化し、興行につなげる活動は一連の生産活動の縮図として参考になる。作品の面白さと共にものづくりの背景を感じ、いろいろな視点を持って今後も趣味と実益を兼ねて楽しんでいきたい。

連載「環境とISO14001」⑰

「海洋プラスチック汚染」（その2）

環境主任審査員　**郷古 宣昭** *Nobuaki Goko*

1. 前回（連載よみもの64）では

毎年少なくとも800万トンのプラスチックが海洋に流出していて、このまま増え続けると2050年までに海洋中に存在するプラスチックの量は重量ベースで魚の量を超えるとの予想があります。汚染が特にひどい水域は東アジアで、その原因は中国およびその周辺国が世界の廃プラスチックを集めていて、運搬及び処理能力を超えたものが海域に排出されたものと推定されます。（付表）

廃棄されたプラスチックは紫外線や波の力で微細な破片（マイクロプラスチック）となり、海水中の有害化学物質を吸着したまま捕食され、汚染を拡散していることが指摘されています。2020年4月2日付の日経等のメディアは、6000mのマリアナ海溝に生息する新種の甲殻類（オキソコエビ）の体内からPET繊維が検出されたことで、プラスチック汚染が深海に及んでいることを伝えています。

2. 海水中の有害化学物質とは何か

1960-1980年頃に使用された農薬やDDT、BHCなどの殺虫剤や廃棄物焼却炉で発生するダイオキシン、設備から流出した絶縁油（PCB）等で「残留性有機汚染物質」と称される物質で、環境に直接放出され、今でも広い海水域に残留しているのです。ところが、2009年頃からプラスチックの成形時の熱分解を防ぐ安定剤や製品の紫外線劣化を防ぐ紫外線吸収剤、製品を火災から守る難燃剤等が新たな「残留性有機汚染物質」としてリストに続々載るようになりました。これらの薬剤はプラスチックの成形時に意識的に添加されるもので、環境中に直接放出されるものではなく、海水域に流出したプラスチックから溶出したものです。

3. 各国の対応

2018年6月に開催された主要7か国首脳会議（G7）で「海洋プラスチック憲章」が採択され、「2030年迄に全てのプラスチックを再利用や回収可能なものにする」という方針を掲げました。UNEP（国連環境計画）は、80か国40地域でレジ袋・プラスチック容器に何らかの規制がかけられていると報告しています。例えば、

- EUは2030年までに全てのプラスチック包装のリサイクルをめざす。2021年からフォーク、皿、ストロー、マドラーへのプラスチックの利用を禁止する。
- インドは2022年までに使い捨てのプラスチックを全廃する。
- 南アフリカ共和国が2003年にプラスチック袋の使用を規制（禁止・課税）しており、他のアフリカ諸国30か国が追随している。

4. 日本がやるべきこと

(1)レジ袋の有料化が2020年7月から始まりましたが、厚手（50マイクロメートル以上）、生分解性、バイオマス素材のものは規制除外になります。抜け道の多い「有料化」ではなく「禁止」すべきで、レジ袋だけでなく、食器やトレーも規制すべきでしょう。

(2)2018年に中国が廃棄物の輸入を禁止して以来、日本の廃プラスチックは行き場を失い、廃プラスチックの再生・処分が中国頼みだったことが露呈されました。自治体が引き受けている分別収集を含めてリサイクルの全体のスキームと技術を再構築する必要があります。

(3)植物由来の生分解性プラスチック製品を増やして廃棄物は土に戻すべきです。また、プラスチック製品の意図せぬ海洋流出を考慮して製品設計・添加剤処方を見直すべきでしょう。生命を生み、そして育んだ母なる海を廃棄物の墓場にしてはならないと思います。

次回は、全世界的規模で影響を及ぼしている新型コロナウイルス危機について考察します。

付表　マイクロプラスチックの観測浮遊密度

海 域	浮遊密度（個/㎥）
東アジア海域	3.70
北大西洋（収束域）	1.70
瀬戸内海	0.39
北極海	0.34
地中海	0.15
北太平洋	0.12
南極海	0.031

出典：磯部 Marine Pollution Bulletin, 114, 623-626（2017）

No.01 Letter

世界初から世界のTakeuchiへ

株式会社竹内製作所（ISO9001:2015認証登録）

品質部長　松本 賢治

本社・本社工場（長野県埴科郡）

竹内製作所は、1963年創業の小型建設機械のメーカーです。主力製品は、ミニショベル（製品質量6トン未満）、油圧ショベル（製品質量6トン以上）、クローラーローダーで、「世界初のミニショベル」と「世界初のクローラーローダー」により、新たな市場を切り拓き、常に世界のニーズに応えることで成長を遂げてきました。世界初の360度・全旋廻ミニショベルTB1000（1971年）は、土木作業員のツルハシ代わりとして建設現場で広く受け入れられ、急速に普及しました。また、世界初のクローラーローダーTL20（1986年）は、従来のタイヤ駆動のスキッドステアローダーの足回りをクローラー式（＝無限軌道式）にした製品です。不整地、特に雨でぬかるんだ場所での作業安定性が高く、今でも圧倒的な支持を得ています。

当社の一番の強みは、「製品のクオリティ」です。品質の高い製品をお客様に提供し続けるためにも、また経営全般の基盤強化のためにも、QMSによるチェック機能を大いに役立てたいと考えています。

「世の中にないもの」、「人に役立つもの」を世に送り出すこと。この精神は、「世界初から世界のTakeuchiへ」の企業理念とともに、受け継がれていきます。

世界で活躍するTakeuchi製品

▶ https://www.takeuchi-mfg.co.jp/

No.02 Letter

人が輝くISO活動を目指して

株式会社茨城製砥（ISO9001:2015認証登録）

管理課　栗原 政美

社内掲示物（品質目標・製品案件ごとの品質データ等）

当社は茨城県常総市にて1968年に精密工具であるレジノイド極薄切断砥石、ダイヤモンド・CBN電着工具の製造メーカーとして創業し、2015年にISO9001を取得しました。ISOを通して高精度・高品質・高付加価値な製品をお客様へお届けしています。

特徴的な活動として、製品の特性や品質データなどの社内掲示物を作成し、見える化で情報共有を促進しています。お客様満足度向上のため、製品案件ごとの「カウンセリングシート」を作成し、顧客要求を深く理解した上で常により良い提案ができるよう努めています。社内コミュニケーションを活発にするため、週一度の工程ごとに行うミーティングでは製造現場での具体的な問題を解消し、3ヶ月毎に各工場間で内部監査を実施し客観的な視点で意見交換をしています。

これからも経営理念である「人が輝く会社を作ろう」の通り、全社員が高いモチベーションで活躍する組織になるためのISO活動を行なっていきます。

レジノイド極薄切断砥石

ダイヤモンド・CBN電着工具

▶ https://www.ibarakigrindingwheel.com/

ちょっといっぷく

日本の夏の風物詩のひとつ、風鈴。最近見る機会は少なくなりましたが、涼しさを運んでくれるような心地よい音色を奏でてくれる風鈴に癒しを感じる方も多いと思います。

風鈴の歴史は古く、古代中国で竹林の枝に吊り下げて、風の向きや音で吉凶を占う道具として使われた「占風鐸（せんふうたく）」が起源とされ、やがて仏教とともに日本に伝わり、お寺のお堂の四隅に吊るされている青銅製の風鐸となります。風で鳴る音が邪気を祓い、この音が聞こえる範囲には悪いものが寄り付かないと信じられ、厄除け・魔除けとして定着していき、平安・鎌倉時代には、貴族の屋敷の軒先にも、疫病神の侵入を防ぐための邪気祓いとして吊るされるようになりました。風鈴（当時は「ふうれい」）と名付けたのは、浄土宗の開祖といわれる鎌倉時代の僧、法然上人とされ、後に「風鈴（ふうりん）」と呼ばれるようになります。

江戸時代に入ると、西洋から伝わったガラス技法によりガラス製の風鈴が誕生しますが、その時代のガラスは貴重で、当時の価格で約200～300万円ともいわれています。その後明治に入る頃には徐々に価格も下がり、広く庶民の間で親しまれるようになり、魔除けから涼を感じるものへと移行していきます。風鈴につけられている短冊はわずかな風を捉えて音を奏でる装置にあたり、ギザギザした鳴り口も美しい音色を出すための仕掛けだそうで、いずれも庶民の知恵から生まれたものです。

風鈴の音色には、「1/f（エフぶんのいち）ゆらぎ」があるといわれています。“f”はfrequencyのfで、一定のようでいて実は予測できない不規則なゆらぎのことをいい、人が心地よく感じる音に共通する周波数と振幅の特性を科学的に分析した指標のことだそうです。この定義に適った音を聞くと脳内のα波が増加状態になり、リラックス効果がもたらされることが確認されています。波の音や小鳥のさえずり、また、最近癒し効果が高いと注目の焚き火の波長など、このゆらぎのメカニズムが癒しに大きく関わっているそうです。

風鈴には、ガラス製の江戸風鈴のほか、南部鉄製の南部風鈴など、素材も形も多様で様々な音色を楽しめます。「風鈴駅」と呼ばれる岩手県奥州市のJR水沢駅のホームに毎年夏に飾られる南部風鈴の音色は、環境省が選定した「残したい日本の音百選」に選ばれているそうで、他にも風鈴祭が開催される神社が全国にあるそうです。今年はおうち時間も増え、いつもと違う夏を過ごされている方も多いと思いますが、風鈴の音色で少しでも涼しさと癒しの時間を楽しんでいただけましたら幸いです。（参照：NHK「美の壺」、JR西日本「西日本の美しい風土」、環境省各HP）

Information on training courses

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。（https://ba.intertek-jpn.com/study/）

審査員養成コース

審査員養成コースは、審査員を目指される方だけでなく、最近では企業様から、品質管理体制の改善や、内部監査員のさらなるスキルアップを目指してご参加いただくことが増えております。業務改善や力量向上を目指している皆様のご参加をお待ちしております。

- ISO9001（5日間）/ISO14001（3日間）/ISO45001（3日間）
  ※ISO14001/45001の3日間コースは受講要件がございます。
  詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

開催地 東京（弊社東京事務所）

日　程
- ISO9001・・・ 10/8（木）～12（月）
- ISO14001・・・ 決定次第、弊社ホームページにてご案内
- ISO45001・・・ 決定次第、弊社ホームページにてご案内

JGAP審査員研修（青果物・穀物）

開催地 東京（弊社東京事務所）

日　程 11/10（火）～12（木）

NEW オンラインセミナー

6月よりオンラインセミナーの開催を始めました！
各種規格（ISO9001/ISO14001/ISO45001/ISO27001）の内部監査員養成一日コースを開催しております。
詳細は弊社のホームページをぜひご覧ください。
https://ba.intertek-jpn.com/study/

＊弊社ホームページよりお申込みいただけます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からのお便り

ISO45001：2018 移行型審査員養成コースを受講して

IRCA認定（コースID:2082）労働安全衛生移行型審査員養成コース（2019年12月東京会場）受講

インターテック審査員　玉城 武則

ISO9001、ISO14001の審査活動を通して、「安全」はすべての業種・業態・規模にかかわらずすべてに優先すべき事項と日々確認をしてまいりました。

今回、労働安全衛生マネジメントシステムの「知識」「スキル」の習得を目標に本コースを受講させていただきました。本コースは毎朝の宿題の読み合わせから始まり、講師による指導、グループワーク、プレゼンテーション等、夕方まで息抜くことなきプログラムを3日間受講し、修了試験に「合格」致しました。講師、スタッフの心温まるご指導、他受講者のご協力に深く感謝申し上げます。

今後は労働安全衛生マネジメントシステムのみならず、他マネジメントシステムの「知識」「スキル」を再認識し、審査活動に生かしていきたいと思います。

インターテック・サーティフィケーション株式会社　https://ba.intertek-jpn.com/
東京事務所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋ノーススクエア　TEL：(03)3669-7408 FAX：(03)3669-7410 E-mail：info.ba-japan@intertek.com
大阪事務所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F　TEL：(06)6150-0571 FAX：(06)6150-0575 E-mail：info.ba-osaka@intertek.com